

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4-2-4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色の気づきと表現を広げる

<テーマの設定理由>

色にこだわりが出てきて、自分で色を選んで制作活動に取り組んだり、クレヨンで色を混ぜて楽しんでいた。実際に色水を混ぜて色の変化を目で見て楽しめるようにしたり、色を認識し表現するとともに、子ども同士のコミュニケーションに繋げ、ごっこ遊びや運動遊びなどの活動を楽しみたいと思った。

2. 活動スケジュール

- ①令和7年8月
- ②令和7年9月
- ③令和7年10月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・子ども達が好きな色を選べるよう、机に色水が入ったペットボトルを置いた。また透明のプラカップを1人1個配り、色水を混ぜた時の変化が見てわかるようにした。
- ・色を選ぶ楽しさが味わえるよう、9色の絵の具を準備し少人数で行う。半紙とスポイトを使って滲ませた。
- ・4色のカラーマットを部屋に広げ、リレー用パトンを見せながらパトンと同じ色に移動する遊びを楽しむ。部屋を広く使って体を動かした。

4. 探究活動の実践

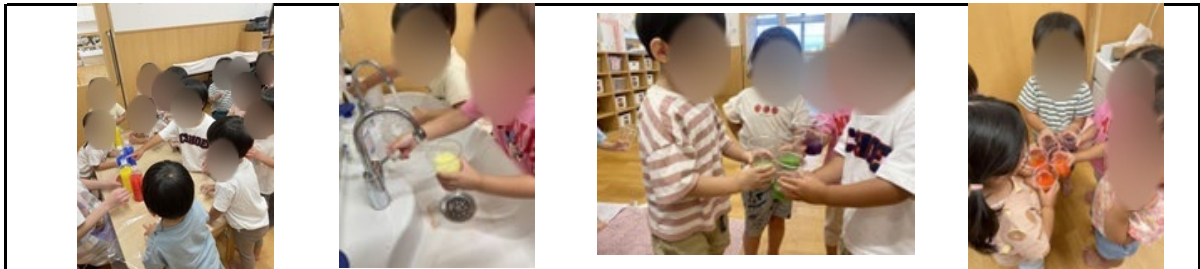
<活動の内容>

- ・赤、青、黄、白の色水をプラカップに入れて混ぜ変化を楽しむ。
- ・赤、ピンク、オレンジ、黄、黄緑、緑、青、水色、紫の9色の絵の具の中から好きな色を選び、スポイトで半紙に垂らして滲ませる。
- ・リレーのバトンと同じ色のマットに移動したり、移動したマットで他児と触れ合う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・プラカップに色水を入れて変化を楽しんでいる時に「もっと水を入れたい」という子がいた。水を更に足し、色が薄く変化する様子を見た。
- ・9色の絵の具から4色選ぶように伝えと、「全部混ぜたい」という子が何名かいた。意見を尊重し、全色を混ぜるが濁った色になり首を傾げていた。
- ・色を認識し、移動して体を動かしていた。移動した先のマットで他児と体の部位を合わせたり、タッチをするなどの触れ合いも楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

3回の活動の中で、色を認識したり変化を知ったり、表現したりなど色を楽しんでいた。「全部混ぜたい」「こうしたらどうなるかな」など、活動の中で子ども達から様々な疑問も出てきて、実際にやってみて疑問を解消し、探究心を深めていけたと思う。長い活動期間の中で子ども達の成長とともに、色との関わり方も変化していく姿を見ることができた。子どもが主体的に活動できるよう、環境構成や導入などを考え、楽しく活動することができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4-2-4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色と素材

<テーマの設定理由>

毎年、子どもの日前に園庭に鯉のぼりを飾っている。今年は共同制作で大きな鯉のぼりに絵の具で色塗りをした。その時に偶然できた色に興味を示したり、自分達で予測を立てながら色を作る姿があった。そこで、色との出会いを楽しんだり、自由遊びの時に砂や泥、水の感触を面白がっている子どもの姿を結びつけて新たな経験ができたらと今回のテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

・グループ分け ・必要な素材、道具の検討

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ①模造紙、絵の具、刷毛、筆、透明カップ、絵の具を入れる容器、床をカバーするビニールシート
- ②クレイ粘土、重曹水、絵の具、トレー☑

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①「〇〇色と〇〇色を混ぜたらどうなると思う？」を問いとして設定し、グループ毎に色を選び、刷毛や筆を使いながら色を混ぜたり、出来た色で線や絵を描いてみる。透明カップを使い、色同士を見比べる。
- ②「スライムって知っている？今日はみんなでこの材料を使って作ってみよう。」と自分達でスライムを手作りしようと提案した。2人組で材料を順に混ぜてこねてスライムを作る。また、他チームのスライムを少量ずつ交換し色の変化を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ①初めのうちは「ピンク色にも濃いのと薄いのがあるね。」と色の変化や違いを楽しんでいた。また、「これは何と何を混ぜたら出来たと思う？」友だち同士で色クイズをする姿もあった。中盤からはボディペインティングのような遊びに発展し、色の中に飛び込んだり保育者とタッチをしていた。
- ②水を入れると「ヌルヌル。」「混ぜたらマヨネーズになった。」等と形態を表現していた。重曹水を入れると「ガムみたい。」「ネバネバが強くなったよ。」等と言い実験のような行程を楽しみ、スライムを完成させた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

①の時に設定した色が3原色以外にもあったこともあり、色自体の変化がわかりづらかった。同時に、クラスの子ども達が感触遊びの要素があるものを好み、経験的に少ないように思われた為、幼児期に感触遊びの機会を沢山設けていこうと思った。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4 - 2 - 4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

木の感触や色

<テーマの設定理由>

物を積み上げたり、繋げたりして遊ぶ姿が増えてきた。またその中で友だちと一緒に協力して遊ぶ姿も見られる。

2. 活動スケジュール

令和7年6月～12月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・積み木、プレイタワー、カラーマット

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・木の積み木を高く重ねたり、壊したりするのを繰り返し楽しむ。また手指を使って触ったり、振ってみたりすることで木の感触や音が鳴ること、重さなどに気付く。
- ・プレイタワーでは、パーツを入れると落ちていく様子や音を繰り返し楽しみ、色や動きに注目する。
- ・カラーマットでは、マットの上を歩いたり踏んだりしながら色に気づき、色の変化を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・積み木を重ねて行く中で「高いよ」と話したり、子ども同士で積みあがったのを見て喜んでいる。崩れてしまった時にも「もう1回やろうか」と伝えたと「もう1回」と話し、また積み上げていくなど繰り返し遊ぶ姿が見られた。
- ・プレイタワーではハンドルを回し、転がる木の球体を見つめたりスイッチを押したり、蛇口をひねるなどをして木の感触を心地よく感じていた。その中で、色を重ねると色が変わる玩具ではハンドルを回して繰り返し色の変化を感じていた。
- ・カラーマットではマットを踏み、「あか」「きいろ」など出てきた色を伝えたり、見たものと同じ色の玩具などを手にして伝える場面が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

最初は、積み木をただ積み上げているだけの遊びが、子ども達の成長につれ他児と協力して積み上げたり、保育者が囲いを作るように組み立てると、その中に動物の玩具を置き動物園に見立てたりと遊びの展開が見られた。保育者は「つるつるだね」「はいったね」「倒れたね」など、子どもの行動や感じていることを言葉にして寄り添い、主体的に関わる環境づくりを心がけた。繰り返し試す姿や素材に自ら手を伸ばす姿から、木の感触や色への気づきとともに「やってみたい」という探究心が育っていると感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4-2-4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

花と色

<テーマの設定理由>

・絵の具遊びや制作に興味があり、月間絵本がきっかけで色と色を混ぜてオリジナルの色を作って遊びたいと、子ども達から提案があった。 ・園庭にはたくさんの花や植物が植えてあり、子ども達が毎日水やりを行い植物の成長に興味があった。

2. 活動スケジュール

4/16 園庭や公園で様々な植物を見つけたり触れたりし、図鑑で調べたりデッサンする。
6/30 あじさいや季節の花を花屋へ買いに行く。
8月～11月 夏の野菜や花を図鑑で調べられるようにカラーコピーし、みんなで調べられるようにする。泡と絵の具を使ってバブルアートをしたり、作った色水を使って制作や水遊びをする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・春の公園でデッサンができるよう、バインダー・画用紙・クレヨンを用意。 ・花屋へ行く前に季節の花を図鑑で調べられるようカラーコピーしておく。 ・バブルアートやスパッタリング・・・洗剤・水・網・ブラシ・絵の具 ・絵の具で色水遊びや制作できる道具・・・カップ・ストロー

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・園庭や公園に咲いている花を見つけ、気に入った花や植物をクレヨンでデッサンしてみる。
- ・季節の花を図鑑で調べたり、花屋に売っている花をインターネットで調べ、カラー印刷したものをみんなで見たり好きな花を見つける。
- ・グループごとに花屋へ行き、話し合いで決めた花を購入。
- ・夏の時期は、バブル遊びや色水遊びを行った。花屋で購入した花の色と同じ色を、様々な色水を混ぜながら作っていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・花屋は行った際の会話では、「どうしてもこのオレンジ色の花が・・・」「真ん中の方がピンクが濃くてかわいい」「水色のあじさいを買いたい」など、グループごとに話しあって決めていた。
- ・購入した花や、気に入ってる花と同じ色の色水を作った際は、「抹茶色になった」「○○ちゃんの作った色と混ぜてみたい」など、「同じ色になってきた!」と嬉しそうに保育者に見せたり、友だち同士で色水を分け合ったりと協力する姿も見られた。
- ・バブルアートに挑戦すると、模様を見て「あじさいみたい」と話していた。「この花はきっと嬉しいからピンク色なんだよ」と話す子が印象的だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・花を選ぶ際は、見た目だけでなく色の組み合わせに興味を持ち、自分なりの美的感覚を持っていると感じた。

・色水遊びでは、「同じ色を再現したい」「混ぜたらどうなるか」と友だち同士で考えながら楽しむ姿が見られた。

・実際に花屋へ行き、気に入った花を購入することで更に興味が広がった。子ども達一人ひとりの好きな色味や配色の気付きとこだわりを認め、尊重することで更に探求心が育まれたと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4 - 2 - 4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

磁石の玩具で色々な形を作ってみよう

<テーマの設定理由>

ピタゴラス、マグフォーマーなど磁石を使った玩具が好きな子ども達。色々な形に変化させたり、友だち同士で協力して作ったりなど、興味関心を深められると感じたため。

2. 活動スケジュール

- ・ 4～5名の小グループで別室で遊ぶ。
- ・ 振り返りを行い、気付いたことと作った物を発表する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ ピタゴラス
- ・ 恐竜ピタゴラス
- ・ マグフォーマー
- ・ マグビルド

※遊びに集中できるように少人数のグループ活動にし、場所も別室を準備する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①身近な玩具を使い、色々な形作りを楽しむ。
- ②磁石の性質を知り、興味を持つ。
- ③友だち同士で協力しながら、作ったり遊んだりする。
- ④平面から立体にもなることを知る。
- ⑤磁石には色々な形、大きさがあることを知る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ①磁石の性質に気付いたり、説明して室内のどこに付くか話すと興味・関心を示していた。
- ②自分達で作った物を聞くと、よく覚えている様子だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

3回の活動の中で、色を認識したり変化を知ったり、表現したりなど色を楽しんでいた。「全部混ぜたい」「こうしたらどうなるかな」など、活動の中で子ども達から様々な疑問も出てきて。実際にやってみて疑問を解消し、探究心を深めていけたと思う。長い活動期間の中で子ども達の成長とともに、色との関わり方も変化していく姿を見ることができた。子どもが主体的に活動できるよう、環境構成や導入などを考え、楽しく活動することができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0868
施設名	西綾瀬りりおっこ保育園
施設所在地	足立区西綾瀬4-2-4
法人名	社会福祉法人東中川会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

鏡

<テーマの設定理由>

手洗いをしている時に、子どもが鏡に映った自分を発見。手を動かしてみたり、顔を近づける姿を見てテーマを鏡に設定する。ほふく室の壁にも鏡を貼ったり、鏡のマットでトンネル遊びを取り入れ、鏡の興味を深める。

2. 活動スケジュール

・「これはなにかな?」「これはだれかな?」と興味を示す。 ・ほふく室の壁に鏡を貼ったり、鏡のマットでトンネル遊びをする。 ・鏡に映る自分を見て触ったり、顔を近づけたり、手を動かしてみる。 ・鏡のトンネル遊びを取り入れたり、鏡のマットの上を歩いてみる。 ・探究活動の様子は、写真で記録する。 ・午睡の時間に活動内容を振り返り、話し合った内容を探究記録として保護者にも共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) ・ミラーマット、鏡
--

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

鏡のトンネル遊びを取り入れ、鏡のマットの上に座って鏡を覗き込んだり、鏡の上を歩いてみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・子どもの名前を鏡越しに呼びながら、手を振ってみる。
- ・「これはなにかな?」「これはだれかな?」「おともだちかな?」という感じで触ろうとする。
- ・鏡を立てかけて全身を映し、手足を動かしてみる。
- ・鏡のトンネルをハイハイで通ったり、反対側から「おいでおいで」と声を掛けたり、子どもの名前を呼ぶと笑顔で見ながらトンネル遊びを楽しむ。
- ・鏡のマットの上を歩くことを不安がっていたが、スタスタ歩くようになる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

始め不思議そうに見ていた。鏡に映った自分の姿を「だれ？」や「おともだち？」という感じで触ろうとする姿が見られたり、手を動かしたり顔を近づけてみるなど楽しむ姿が見られた。また、鏡のトンネルや鏡の上を歩いてみるなど、子ども達の遊び方も変化が見られるようになっている。